

茅 風

— Breeze from the field of thatch-grass —



2012年9月8日

森林塾青水

事務局便り

茅風通信37号



ススキにオミナエシ(8月11日)

- ◆6月～8月の活動報告(事務局).....1
- ◆トピックス:上ノ原「入会の森」をめぐる新たな動き(事務局).....2
- 2012年度第一回学生プロジェクト報告.....3
 - ・実施の目的・概要と成果(石原光恭)
 - ・感想:今後に向けて(石原光恭、保莉凱人、各務 研)
- 東京学習会①「利根川を歩く」報告(稲 貴夫).....5
- 特集:麗澤中学「奥利根フィールドワーク」.....5
 - ・麗澤学園の教育理念と当塾の合言葉「飲水思源」
 - ・参加児童の感想(高鳴鴻、遠山和希、横内晴香)
 - ・インストラクターの反省と今後の課題(高野、高橋泉、北山)
- 「藤原の共有地(追加ヒアリングの中間報告)」(海老沢秀夫).....8
- 「上ノ原のフットパスづくり～初夏の上ノ原を歩いて」(増井太樹).....9
- ◆「全国草原サミット in みなかみ」開催迫り!(事務局).....10
 - ー基調講演と4つの分科会のご紹介、などー
- ◇藤原の“ほっと”ショット・コーナー③(中村智子).....11
- ◆編集後記～塾長のつぶやき～.....12
- 講座「コモンズ村ふじわら」(9月22日～23日)開催案内.....13
- 東京学習会「利根川を渡る」(9月29日)開催案内.....14

■ 6月～8月の活動報告

- 6月9日～10日:学生部の石原、保莉、各務の3君による自主企画「藤原合宿」研修。(詳細レポート→3頁)
- 6月13日:浅川、海老沢、清水が高橋佳孝・全国草原再生ネットワーク代表と面談。第9回「全国草原サミット in みなかみ」の開催に関わる事前打合せ。
- 6月15日:町役場・木村SGLと共に浅川、清水が養父志乃夫先生(和歌山大学大学院教授)と面談。「全国草原サミット」基調講演のお願いと内容打合せ。
- 6月16日～17日:講座「コモンズ村ふじわら」③開催。まずは物置小屋に直行、懸案の機械・器具・備品の在庫調べと整理。結果、総在庫は品目、点数ともに夥しい数量でした。自発的かつ献身的作業をしていただいた松澤さんはじめ皆さまご苦労さまでした。本番は、生き物調べと樹名プレート30種60枚の取り付け。(→9頁参照)参加10名。16日夜は、町役場から木村SGL、地元から三郎さん、惣一郎さん、親男さん、大竹さん、一幸さん、北山さんをお招きし、「草原サミット」の受入対応策、NPO 奥利根水源地域交流ネットワーク(吉野一幸代表・当塾幹事)の活動のあり方、など意見交換。
- 6月21日:藤原中区センターで開催の「ダム水源地域ビジョン」懇談会に清水が出席。事務局より発表あった活動計画に対し意見陳述。
- 6月24日:今年度第1回「東京学習会」開催。川の旅人・岡村直樹先生をお招きし、『利根川を歩く』と題してご講演と質疑応答。参加11名。(詳細報告→5頁)
- 6月30日:全国草原再生ネットワーク「総会」に浅川、海老沢、増井、清水が出席。「全国草原サミット in みなかみ」開催にあたり、全面的協力・指導のお願い。
- 7月6日～7日:麗澤学園「奥利根フィールドワーク」の受入れ。参加中学1年生160名余に対し受入れスタッフ18名。地元インストラクターとして林親男、高橋泉、

中島武ご夫妻、北山路加、大竹、木村、黒津、長谷川、萩原の皆さま方に多大のご協力をいただきました。ありがとうございました。(参加児童の感想文など特集記事ご参照→5頁)



柞(ハハソ)の泉の冷たさに驚く児童たち

- 7月14日～15日:講座「コモンズ村ふじわら」④開催。猛暑の中、屈強の中高年男子(!)6名で防火帯造りのための青刈り。「上ノ原フットパス」地図作成のためのルート設定、情報収集も併行実施。(→9頁参照)
- 7月20日:第3回「草原サミット実行員会」に浅川、北山、清水が出席、情報提供ならびに意見具申。
- 8月10日:森林技術総合研修所・寺田教務指導官ならびに向井研修企画官を上ノ原「入会の森」にお迎えし、10月実施予定の「生物多様性研修会」の事前打合せ方々フィールドのご案内。
- 8月20日:日本自然保護協会・出島さんと浅川、清水にて、草原サミット・分科会『地域の生態系サービスの見える化』につき運営要領など事前打合せ。(以上)

◆ トピックス

上ノ原「入会の森」をめぐる新たな動き

当塾発足から12年目、上ノ原「入会の森」での活動を始めて10年目の今年。これまでの活動が様々な形で報道・認知されるようになったせいでしょうか、上ノ原や地域の環境資源に対する評価や活用の仕方に、これまでにない新たな動きがでてきました。まだ萌芽状態のものもありますが、以下5つの動向につき要約報告します。(事務局)



1. 首都圏中高生や大学生の学習・研究フィールドに

- ・みなかみ町が積極的に取組んでいる中学生・高校生を対象とした「教育旅行」受入れフィールドとしての実績に加え、大学生のフィールドスタディの対象となる動きが具体化してきました。(写真上:教育旅行実習風景)
- ・9月と10月、東洋大学のゼミ生50人弱が合宿形式で藤原に逗留し、森林塾の活動に参加します。地元の皆さまへのヒアリングや町役場関係者へのインタビューなどを通して、中山間地域の現状を学び活性化策を提言しようとするものです。早稲田大学生を中心とする当塾「学生部」や立教大学他にも、同様の動きがあります。

2. 企業のCSR活動のフィールドに

- ・当塾は、これまでの「流域コモンズ」展開の過程で、既に20社をこえる地元法人・企業のご理解・ご支援をいただいておりますが、この輪が首都圏一円に広がる可能性が出てきました。
- ・群馬県(観光物産国際協会)から、首都圏企業のCSR活動に活用できる素材・場の提供を求められ、上ノ原における生物多様性保全活動や古民家再生・活用プランを提案し検討していただいているところです。

3. JR 東日本 のエコツーリズム対象エリアに

- ・JR 東日本発行の旅行雑誌「トランヴェール」7月号の特集記事は『ぐんま昆虫をめぐる冒険』というものでした。日本一の大河利根川を擁する群馬県の豊かな自然環境を紹介するなかで、嬭恋村、赤城町、みなかみ町の3町村に主な頁が割かれ、多種多様な昆虫たちが紹介されました。
- ・みなかみ町は見開き2頁で、キャッチコピーは[みなかみ町]ススキ草原とミズナラの林に育まれた里へ、というもので全て上ノ原「入会の森」の紹介でした。左下がそのコピーです。取材協力された長谷川雅彦さん(みなかみ町観光協会)に感謝です。

4. 林野庁職員の生物多様性研修の場に

- ・林野庁森林技術総合研修所が、同庁職員ならびに全国都道府県担当者を対象とした「生物多様性保全研修会」を10月に開催すべく準備中です。
- ・そのフィールドスタディの対象として、上ノ原における当塾の取組みと赤谷の森における活動が選定されました。林野庁と我々民間団体(含む、町役場当局)との連携・協働のあり方を模索することがメインテーマの一つです。前向きに対応すべく準備中のところです。

5. 大手調査研究機関による国委託事業の調査対象に

- ・これは未だ打診段階の話ですが、某大手調査研究機関が霞が関・某省からの委託事業の調査対象地として上ノ原「入会の森」を検討しています。
- ・生物多様性のホットスポットとしての上ノ原「入会の森」が管理放棄され野地化してしまった場合、それがもたらしている生態系サービスを回復するにはどれだけのコスト(国民への負担)がかかるのか。そんなテーマに取り組むためのフィールドたり得ないか、という視点で検討中のところです。

(以上、文責:清水)



■2012 年度・第1回学生プロジェクト報告書 石原光恭(学生部代表)

1.実施の概要

- 日 程 6月9日(土)～10日(日)
- 集 合 9時00分、西武新宿線 所沢駅東口改札
- 参加費 7,000円(学生会員費6,000円+年会費1,000円)
- ※宿泊費、食費(夕食・朝食)、保険代などを含む。初日の昼食は各自持参。
- 宿 泊 ろっち「たかね」みなかみ町藤原5438(0278—75—2228)



■当日参加者 石原光恭(政経2年)、保刈凱人(政経3年)、各務研(政経1年)

2.目的

ノコ・ナタの講習や旧木馬道の散策を通して、中島仁三郎さんおよび林親男さんと交流を深め、藤原の地勢や文化、歴史、暮らしについてのお話を伺うこと。その上で、学生部として今後の活動の指針を見出すこと。

3.成果

◆防火帯作り

初日は雨天のため実施できなかったが、二日目の9時～11時のあいだで侵入木の除伐を実施した。海老沢さんの地図を見ながら、当日は北山さんと学生参加者3名で作業した。その際、初日に仁三郎さんに教わって研いだノコカマを使用した。目測では約10メートルの範囲で除伐を進めることができた。最後には、直径約20センチメートルの樹木をノギリのみを使用し、北山さん指導のもと3人で協力して伐採した。

◆地元古老へのヒアリング

清水さんを通じて、事前にお話を伺いたいとお伝えいただいたおかげで、初日の夕食後に北山さんと仁三郎さんから話を伺うことができた。北山さんにいただいた地図を広げて、藤原の地勢(県境と五つの百名山、茅場など)や文化(白けし窯の炭焼き、炭焼きに適した樹木の種類、えいっこ)、歴史(ダム開発、青水、トタン屋根、仙太郎親方と雲越家住宅)など多岐にわたって藤原を取り巻く自然環境および文化環境について知ることができた。また、その中で藤原の人々の茅場に対

する考え方や中学校の統合問題、ダム開発にまつわる住民同士の意識の差なども知ることができた。茅場はいくまで昔の生活を支えてきた場所であって、生活の中で茅や薪を使わない現代の生活様式の中では特に大事なものではなかった。百年以上の歴史を持つ中学校は役場の経費削減のため統合されようとしていた。ダムが開発されても生活が豊かになったわけではなく、今思い返せば満足できるものではなかったという。藤原の人々が抱える問題を前に、学生にできることは何か、改めて考え直す貴重な時間となった。その点で、今後の活動方針や目標を考える材料は十二分に揃ったと言える。

4.感想;今後に向けて

石原光恭(早稲田大学政治経済学部2年)

当初は企画の目的も定まらぬ中で、まずは自立した企画を立ててみようと思いたことが結果的に大きな成果を生んだ。企画を自分たちで運営するというのは大変なことで、ただそれだけよい経験となった。自分たちのやりたいこと、できること、できないことを踏まえ、そのためにお願いしなければいけないことを一つ一つ確認し、必要な仕事を粛々とこなした。まずは、やりたいことを最大限尊重し、その実現のためにアドバイスをいただいたことに感謝したい。

今回の一番の成果は、直接のヒアリングを通して、藤原についての知識を深められたことである。5月から6月の初旬にかけて、石原と保刈さん、その友人で学生部の活動理念や強み、今年の目標について議論を重ねてはいた。自分たちの活動に意味を見出そうとする余り視野が矮小化し、自分たちにとって成果となりうることは何かを必死に考えていたのだと思う。しかし、それは学生部にとっていかに有意義な時間を過ごすかという学生本位の考えでしかなかった。そこに藤原の人々の言葉や想いは共有されていなかった。今回の最大の成果として、この意識の差をわずかではあるが埋めることができた。これから、今回の原体験を基に藤原において学生が考える問題とは何かを明らかにし、理想の状態を仮定し、その実現のために何をするのかを目標として設定し直す。藤原の人たちの理想や望み、多くが内面的であるこれらを見出して、実現するべく活動していきたい。



保刈凱人(早稲田大学政治経済学部3年)

先月に続き、2回目の藤原訪問となった。前回終了後、光恭くんや学部の友達を誘いミーティングをして、学生プロジェクトの理念などを決めた。今回の訪問目的なども事前に打ち合わせることができた。第一弾としては、なかなか順調なスタートを切れたと思う。



まず活動予定であったノコカマ研修であるが、生憎の天気によりノコカマの手入れに変更となった。ノコカマ名人であり宿泊先オーナーである仁三郎さんのログの倉庫で、やすりを用いて刃を研いだ。前回の侵入木伐採でお世話になったため気合を入れて始めたが、これがなかなか難しい。手首の向きを固定して、一定の強さで研いでいくのがコツだという。一つ一つの刃を鋭いナイフのようにしていくのは、集中力と忍耐が必要であった。一方、カマ研ぎの作業は比較的楽。砥石で刃を磨いていく。しかし、こちらも一定の力で均等に磨いていかないと逆にキレ味が落ちてしまう。切れ味の目安は産毛を剃れるくらいというのが印象的だった。実際に近くの雑草などを刈ってみたが、自分たちで手入れした道具を使うのは大変気持ちが良かった。数段切れ味が上がったような気分になる。皆様にも是非フィールドで使って確かめていただきたい。

そして夜、個人的に最もしたかったヒアリングができた。ヒアリングといっても、部屋に北山さんが来て、仁三郎さんが来て、自然な流れで話が始まった。途切れることなく、本当に様々な興味深いお話を伺うことができた。その中でも特に心に残ったのが、藤原の歴史と中学校の統合問題である。自分の中にある茅葺の古民家や入会地は残していくべきだという先入観に気づかされた。地元の人にとってそれらは、生きていくために自然と形成されていった合理的な生活手段である。周りの環境が変化すれば、自分たちの生活様式も変化させていくのは自然なこと。すべきであるという規範的な考え方が揺らぎ、方向性がわからなくなった。中学校の統合問題についても、学生として何かできるかもしれないと感じたが、事情を聞けば聞くほど何とも言えない。ただ、混乱しつつもなぜか一歩前進できた気がした。このモヤモヤした問題意識に自分なりの答えを見出すことは、己の信念、さらには学生プロジェクトの理念を明確にすると考えたのだ。まだまだ知識も経験も少なく未

熟だからこそ、これから地元の方からもっと話を聞いたり活動をしたりして、自分の頭で今後どう行動していくか考えていきたい。そして、自分と向き合うとともに藤原のこと、さらには社会のことを考えていきたいと思った。最後に、今回の学生プロジェクトの反省点として参加人数の少なさを挙げておく。より多くの学生に藤原へ来てもらい、一緒に思いを共有したい。団体の規模拡大が、目下の課題である。

今回もセッティングを行い援助してくださった青水や藤原の皆様、どうもありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

各務 研(早稲田大学政治経済学部1年)

今回の合宿は、天候には恵まれなかったが、和やかで楽しかった。宿にも清潔感があり、食事もおいしく、北山さん・仁三郎さん・親男さんをはじめとする人々もみな優しく良かった。

ヒアリングがメインということで、事前準備がかなりきちんとなされていたことは素晴らしいと思った。森の活動でも参考にしたいと思った。

そのヒアリングでは、群馬県みなかみ町藤原も、若者離れ・雇用不足(これは若者離れの大きな要因と推察される)・地域内格差・震災による諸々の被害など、田野畑村と同じく、日本の地方域が抱える様々な問題を抱えていることが分かった。と同時に、それに対して危機感を持つ地元の人が何かしたいと思っていても地元民の理解と協力はなかなか得られないこと(地元民は存外冷めている)や、当たり前だが昔を知り、語ることのできる人々は次々となくなっていくこと(高齢化)が肌で感じられた。それらの課題を受け止め、取り組んでいくことは本当に難しいことであるが、この国の未来を生きる我々、若者が向き合わざるを得ないのであろうと思う。

僕の主たる活動の場は、あくまで田野畑村であり、今回の企画にも森で活かせることを学び取ろうという態度で臨んだつもりだが、当初のそれは完全とは言えないまでも果たされたのではないかと感じている。次回はほかの森の人(特に一年)を連れて行っていただきたいと思う。

引率して下さった石原さん・保刈さんには感謝したい。どうもありがとうございました。



■東京学習会「利根川を歩く」開催報告 稲 貴夫



薄根川との合流点付近を流れる利根川(前橋市)

今年度第一回の東京学習会を、6月24日(日)午前10時より中央区の銀座区民館で開催しました。本年度の学習会は「利根川」が共通テーマですが、その第一回目は、「利根川を歩く」をテーマに旅行作家の「川の旅人、岡村直樹先生を講師にお招きし、会員会友12名が参加しました。学習会では、川をライフワークとする岡村さんより、なぜ川に魅せられたのか、川への想いを参加者と交わしながら、利根川をはじめこれまで訪ね歩いた全国の河川を素材に、自然と文化を切り口としてお話をいただきました。その概略をご紹介します。

まず、川の名称について、利根川の語源についての定説はないものの、アイヌ語で巨大な谷を意味する「トンナイ」、あるいは「とがった峰」から来ているなどの諸説の紹介を皮切りに、一般的な川の命名法の類型についても解説いただきました。具体的には、動植物型、数字型(例:四万十川)、鉱山型(例:銀山川)、



埼玉県旧妻沼町での四つ手網漁 人体型(例:耳川・手取川)、対照型などがあり、珍しい例として、人名型(かつて伊予川と呼ばれていたが、河川改修の功労者の人名に改称された愛媛県の重信川)、珍名型(アイヌ語で魚の棲まない川を意味するヤンケナイが語源の夕張川支流のヤリキレナイ川)など、川の命名には様々な方式があるということです。

また、映画「フーテンの寅さん」第一話の冒頭で、寅さんが都心からではなく、江戸川を矢切りの渡しで超え柴又に帰ってくるシーンに触れ、名場面を演出する、川の持つ特別な意味についてもお話いただきました。



矢切の渡し

日本の河川風景の特徴である「河原」についても、沼田藩の圧政に憤り、農民を救うため将軍綱吉に直訴、月夜野の河原で処刑された義民、杉木茂左衛門などを例に、その文化史上の意味についても解説いただきました。

最後に、力士の四股名から、「〇〇川」が消えていったのは、海や山以上に河川をめぐる自然環境が荒廃してきたことの証であるとの問題提起をされ、故郷の誇りとしての川の復権に向けて、自然の回復や船運の復活などを通して人間と川の関係回復について提言をいただき、講演を終えました。写真は、当日の資料として提供いただいた30点の写真の一部です。(幹事 稲)

■特集 麗澤中学「奥利根フィールドワーク」

7月6日、今年も麗澤学園(柏市)の児童たちの歓声が上ノ原に木霊しました。中学1年生を対象にした、この「奥利根フィールドワーク(昨年までは「水源の森フィールドワーク)」は、当塾が事業受託してかれこれ10年の歴史を持ちます。上ノ原「入会の森」と藤原集落を、自然ふれあい環境学習の場として活用するプログラムの最たるものです。この際あらためて、学園の教育理念や参加児童の感想、インストラクターの振り返りなど紹介しつつ、今後の改善課題を共有したいと思います(編集子)

◆学園の教育方針と当塾の合言葉「飲水思源」

麗澤中学「奥利根フィールドワーク」は、中学3年間を通じた教育プログラムの一環として実施されて来ました。同校教育理念の基本ならびに当塾の活動理念『飲水思源』を要約ご紹介し、双方が基本的に共通するものであることを関係者の皆さま方に、あらためてご認識いただきたいと思います。ゆめ

1. 麗澤学園の「自分プロジェクト」と教育理念
 - ・麗澤教育の目指す人間像:「仁草木に及ぶ」
 - ー大きな志を以て真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物
 - ー自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物
 - ー自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物

ゆめ

- ・「自分プロジェクト」は中学 3 年間を通した学習プログラム(総合学習)
- ー1年生:自分と自然の関係を学ぶ(樹木や森に学ぶ)
- 2年生:自分と国家の関係を学ぶ(熊野、伊勢、奈良 京都を訪ねる)
- 3年生:自分と世界の関係を学ぶ(英国、ニュージーランドなど海外訪問)
- ー最後に「自分史」を書く。自分の存在や現在の豊かで平和な社会の根源を思い、「根本につながる」「感謝する」「自分の使命を見つける」ことを期待

2. 森林塾青水の活動理念「飲水思源」

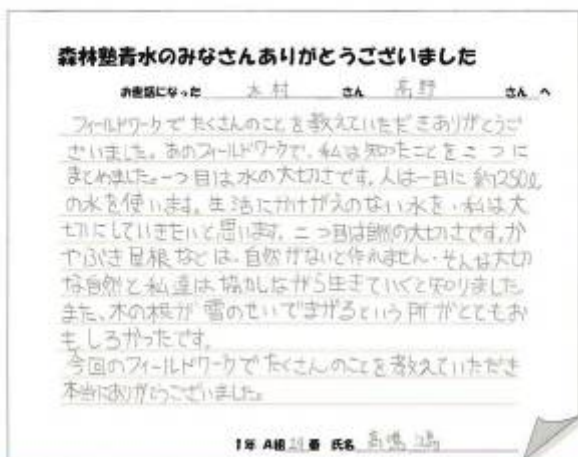
・中国北周時代(556～581年)の詩人・癒信の「徴調曲」の一節『その実を落とす者その樹を思い、その流れを汲む者その源を思う』が元となって出来た訓え。水を飲めば源を思うべし。井戸を掘ってくれた人の恩を忘れてはならない、の意。

・現代人が忘れがちな、雨水とそれを育む森、里山、大自然の恵みに感謝する心を大切にし、先人が培った知恵、原風景と生物多様性を次世代に繋いでいくべし。

◆参加児童の感想

160余人の参加児童たちは、どんなことに気づいてくれたのでしょうか。紙数の都合で、3人の感想文を掲載させていただきます。(編集子)

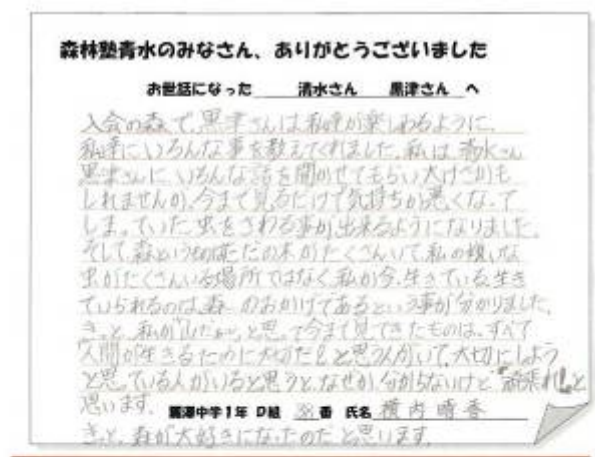
高鳴 鴻さんの感想文



遠山和希さんの感想文



横内晴香さんの感想文



◆インストラクターの反省と今後の改善課題

16人のインストラクターがそれぞれ個性を発揮して頑張ってくれました。紙数に限りがありますので、3人のレポートを参考に、今後の改善課題を共有したいと思います(編集子)

麗澤中・フィールドワークの記録&感想 高野 史郎

今回は「奥利根水源の森」が台風被害などで利用できないため、「芦の田峠」を使うことに変更された。実施前日の7月5日(木)午後にコース下見となった。

また、当日の朝にインストラクター全員がサンバードで顔合わせと打ち合わせという、いつもとはかなり違う状態でのスタートとなった。8台のバスの運転手さんも、「広い道路は大体知っているが、行く先の細かい地名や曲がり角、駐車場所がよくわからない」と、不安そうだった。先行する1台目、5台目の運転手さんには、わかりやすい地図があったほうがよかったかも。

グループによって、回るコースの順は違ったが、列記すると次のようになる。コースメモと、個人的感想を下記に書き出す。

●平出藤原ダム水守の像

生徒たちは、前日に奈良俣ダムを見ていたはずだが、そこでどんな体験をしたかをインストラクターは殆ど知らない。それを結びつけないと、湖底に沈んだ村のあることも実感しにくかったような気がする。一方的な解説ではなく、話題を投げかけ、生徒たちからの話しを聞く態度も必要なのでは？

1 日一人の体の水収支は、不感蒸泄なども含め 10lといわれる。樹木観察で植物の蒸散作用も学んだ。人のからだも植物も、60%程度は水分。ありがたいことに「地球は水の惑星」...

●芦の田峠

最初から坂道。道が狭いので、長い列になる。どこでみんなに集まってもらって話をするか、苦労した。クリやカツラの大木は絶壁に生えていた。何百年も前から、あんな崖っぷちに生えていたの？ それとも、太い根っこが土砂崩れをとめた？ ブナの木が、もう少し見やすい場所にあるといい。ブルが通った道にスギ苗が植えてあるのは、どう説明したらいい？ 湿原は、どう保存あるいは活用する？

●諏訪神社見学～青木沢集落

あわただしく記念撮影して、神社前の階段を駆け上って、バスに戻ってしまったグループもあった感じ。当日参加したインストラクターには、このあたりの深い思いがなかったのでしょうね。

田んぼや畑の作物、サル被害に備えての柵なども話題提供した。

●上の原入会の森 ハハソの泉・ススキ草原・二次林

もっとじっくり散策したかった。今年はタマガタケもナンバンキセルなども見られなかった。シカの糞がどこかにあるとよかったのに。この頃から雨が降り出して早足になってしまった。

●雲越家住宅見学

一番早く着いたので、1階は隅々まで見る機会に恵まれ

た。冬の季節は、風通しも悪いし、奥の布団などはかなり湿っぽくなるだろう、などと昔の暮らしを偲んだ。

飛び入り参加した？ 中島夫人が仙太郎さんの生涯を紙芝居で語ってくれ、生徒たちは熱心に聞き入っていた。この秋、生徒たちはどうまとめて学園祭に発表するのかが気がかりだし、楽しみでもある。

＊

後で何人かから、別のグループの話しを聞いた。親男さんが、子どもたちと草花遊びを披露していた。武さんが、ハウノキで風車作りを実演していた。泉さんは、木の実と動物たちの暮らしの話をしたらしい。こうした伝承が、森林塾の中に広まっていくと、子どもたちの目が輝くことだろう！

当日集まった山岳ガイド？の方々は、麗澤中や森林塾の基本方針をほとんど関わっていなかったから仕方ないが、課題も多かったフィールドワークであった。

解説方法の工夫がほしい。長い列になったら、歩きながらしゃべるのではなく、後ろの人の到着を待って前の人にはしゃがんで貰うとか。相手は小学校を卒業したばかりの中学生、音読みの難しい熟語を避けて、話し言葉で実物を見せながら説明するとか。

ともあれ、浅川さん・北山さん、ご苦労様でした！！！！



フィールド・ガイドの要点と振り返り

高橋 泉

久しぶりの上ノ原高原は、見違える程の手入れがされていて、幼少の頃に遊んだのを思い出し、懐かしくなりました。そして初踏の芦ノ田峠、とても良い所ですね！ 里山らしい植生が続く急登の後の開けた峠は、ピークを征したような達成感を、生徒と共に味わうことが出来ました。ただ個人的には、この先「杉林」となるのは惜しい気もしますが...

さて本題の奥利根フィールドワークの要点ですが、上ノ原では天気も良くゆっくりと歩けましたが、午後は降雨と低体温症？の生徒が出て、早々に青木沢へと向かったのので、伝えたいことが余り話せず反省しきりです。

①バス内レクチャー

アイスブレイク、藤原の位置と気候、危険な生物の説明→熊鈴

②仙太郎旧居

上ノ原のススキを利用した茅葺き屋根。茅葺き屋根の利点は？

③上ノ原の草原

1.蝶にはそれぞれ食草が決まっています、自然環境に左右されやすい。多種の蝶が飛んでいるということは植物が豊富で、豊かな自然が保たれている証。

2.眺望を楽しみながら地理の勉強。

ここは武尊山の噴火によって流れ出た溶岩が形成した高原台地。残雪の朝日岳、その向こうは越後湯沢。越後というとは何県？

④上ノ原の林内

草原から森に入った途端『涼しい〜』の声！木の有り難さを実感。ほかに森林による働きは？

⑤上ノ原の林内

藤原での産業の歴史について。

1.炭焼きが主な収入源。材はミズナラ→ひこばえの幹更新→確かに周り一面には株立ちのミズナラが。窯と木馬道。

2.ワラビ粉。群馬の産業は？養蚕→製糸(富岡)→織物(桐生)。ワラビ粉は、織物に欠かせない糊の原料。野焼きされたススキ草原はワラビ根が太く元気に育つので上等な糊が出荷できた。

⑥柞の泉

雨が降らなくても涸れない泉。広葉樹ならではの腐植による土壌環境と涵養の仕組み。利根川水源地帯の一沢。3日後には皆の家や学校の蛇口から出る水が今流れています。→飲水思源

冷たくてミネラルたっぷりの美味しい雪融け水→柏の水は？

⑦上ノ原林縁部

キウイの仲間サルナシ、ヤマブドウに山桑も・・・この森にはとっても美味しい果実が沢山実ります。それを餌とする動物や昆虫など多種の生き物が棲みつく、バランスのとれた豊かな森であるといえます。

※いつもなら食物連鎖～物質循環へと繋げるところですが、午後の締めにと、とっておいたら話す機会がなくなりました・・・

⑧ほだ木栽培地

藤原の食の話。キノコ以外にも様々な山菜で自給自足(今歩いてだけでも9種の山菜が！)。食以外にも、火をおこしたり、天気を読んだり、生きる知恵を身に付けていた。

⑨水守の像と諏訪神社

親男さんの解説を一緒に聞きました、スマセン。

⑩芦ノ田峠

1.山ウドに山椒、黒文字の匂いを嗅いで、昼下がりの眠気もスッキリ！昔、山に入ったときは歯の掃除に使った黒文字。殺菌や防虫とその成分は凄い(先生は樟脳。生徒にはタンスにゴン)

2.そして五感でもっとも人気の「味わう」。

スナック、カップ麺世代の成人病に効果のあるカリウムがたっぷり！と、笹の新芽を抜いて美味いっ！とやってみせる。食べる食べないではこの後の疲れ方が違いますよ。ついでに笹笛もピ〜♪一度食べ始めればこの後は『これは食べられるの？』と、質問攻めになります。

3.伐採地。雨脚が強くなる。四葉鵜とアサギマダラの関係。



麗澤学園 FW の反省と改善策

北山 郁人

- ・スタッフの調整に手間取ってしまったので、次回は早めに確定させ、野焼きやコモンズの活動にも事前研修という意味で参加を促したい。
- ・半日はこれまでのような自然解説型の内容でもよいが、残りの半分はもう少し体験型であったり、調査的なプログラムをおこなってみてはどうか。
(例えば、茅場の侵入木の除伐や雑木林の間伐、生き物調査、歩道整備、水源探索、など)
- ・事前学習の時間があるようなので、班ごとにみなかみで調べてみたいことや見てみたいことをそれぞれ決めさせ、そのテーマにあった場所やインタープリターをマッチングし、班ごとのコースで実施する。麗澤学園であれば、こういったプログラムもできるのでは？
- ・全体的には、内容、テーマが多すぎるので、逆に生徒の興味のあるテーマを深くしていくほうが、学習意欲も高まるのではないのでしょうか。

■藤原の共有地(追加ヒアリングの中間報告)

海老沢秀夫

藤原の共有地

藤原のみなさんからは折に触れ、茅場や山のこと、暮らしぶりのことなど話を聞いて、たくさんのことを学んできた。特に林好一さんには2004年、「上ノ原の歴史」について話をさせていただき、それが上ノ原についての私たちの理解の基本になっている。でも「上ノ原以外にどんな茅場があったんだろう、場所は？」など、まだまだ分からないことがある。そこで7月15日、雲越萬枝さん宅へ川端英雄、清水英毅、草野洋、海老沢秀夫の4人がおじゃまして話を聞いた。さらに清水英毅がその後、林親男さんと林好一さんに捕捉のヒアリングを行った。その結果、上ノ原以外に藤原の各集落には、共同で利用し管理する「共有地」が多様なかたちで存在したことが分かった。

●各集落ごとに茅場があった

・現在の上ノ原一帯は、「久保」「原」「師入」「関ヶ原」「荻ノ入」「一畝田」「山口」の茅場だった。面積は、それぞれ20〜30ha ほどだったのだろうか。

[illegible]

- ・戸数10数戸の山口には「ムラバヤシ」という共有林があ

・手小屋共有林組合は、中区の42人の組合。面積はわからんなあ、相当広い。今はカラマツを植えたりしているが、一部は宝台樹スキー場に貸している。地代は組合員で分配する。戦後に県行造林(分収造林、県6、組合4)でカラマツを植えた。明治30年に大火事が出て、中区では3軒を残してぜんぶ焼けてしまった。そのときは、手小屋の山から木を切ってきて家を作ったと聞いている。

増井太樹

次の日はフットパス周辺の草刈と散策を行いました。前日とは違って変わって青空も見える天候での作業でした。また、フットパス地図を作成するために歩道の場所を把握する作業も行いました。草原の歩道沿いにはウマノアシガタやヒメハギなどが控えめに咲いていました。どちらも明るい場所が好きな植物なので、私たちが活動を継続することでこのような植物たちも生育場所を



維持できているのでしょう。

お昼ごろには、雪の残る谷川岳を眺望することができました。草原に寝っころがって、ぼーっと遠くの山を眺めながら過ごす時間は心を癒してくれる貴重な時間となりました。



表. 樹名板を取り付けた樹木

アカイタヤ	ツノハシバミ
イボタノキ	ツルアジサイ
イロハモミジ	ツルウメモドキ
ウラジロノキ	トチノキ
ウリハダカエデ	ハウチワカエデ
ウワミズザクラ	ヒトツバカエデ
オオバクロモジ	ブナ
オオヤマザクラ	ホオノキ
キブシ	マルバアオダモ
クマシデ	ミズキ
ケヤマハンノキ	ミズナラ
コナラ	ミヤマガマズミ
コマユミ	ムシカリ
コミネカエデ	ヤマグワ
サルナシ	ヤマブドウ
サワシバ	リョウブ
シラカバ	



□「全国草原サミット in みなかみ」開催迫る！ ー基調講演と4つの分科会のご紹介などー

かねてご案内の全国草原サミットの開催が間近になりました。今や全国的にも希少になった草紅葉の中、エクスカッションや茅刈り体験会、星空ウォッチングなどお楽しみプラン満載です。ここでは、少し真面目に学んでみたい皆さま向けに、基調講演と4つの分科会の簡単なご紹介をしつつ、参加申し込み要領のご案内をいたします。(編集子)

第9回全国草原サミット・シンポジウム in みなかみ 開催



森林塾青水は、発足から12年を迎えることになりました。これも皆様のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

以前からご案内のとおりこの度、森林塾青水のフィールドの拠点としてまいりました、みなかみ町藤原において、～川でつながる草原の恵み～「流域コモンズで分かち合う、水源地域の豊かな自然とくらし」をコンセプトに、第9回全国草原サミット・シンポジウムが開催されます。

この機会に、草原の大切さをあらためて問いなおし、全

国の草原保全活動をされている方々との交流の輪を広めたいと思います。是非ご参加下さい。

参加申込みは、先日お送りしました「講座コモンズ村ふじわら」の案内の申込みでお願いします。みなかみ町には、こちらからまとめて参加申込みいたします。

実施概要

- 期 間 2012 年 10 月 27 日(土)～29 日(月)
- 会 場 みなかみ町立藤原小中学校体育館(群馬県利根郡みなかみ町)

●日程・内容

10 月 27 日(土曜日)13 時～16 時

現地見学会

- ・上ノ原「入会の森」の草原と藤原地区雲越家住宅・諏訪神社などの見学
- ・茅刈り体験

10 月 28 日(日曜日)9 時～16 時半

シンポジウム

基調講演

「里山における人の営みが、
生物多様な環境を維持」

養父志乃夫氏

(和歌山大学大学院システム工学研究科教授)

分科会テーマ

- ・第1分科会
地域の生態系サービスを見える化-マップづくり-
- ・第2分科会
草資源(茅)の多面的な利用とこれからの茅葺き
- ・第3分科会
流域コモンズによる生物多様性保全と価値評価
- ・第4分科会
草原と観光(ニューツーリズム)

10 月 29 日(月曜日)9 時～12 時

第 9 回全国草原サミット(公開)

藤原の“ほっと”ショット・コーナー③

地元・中村智子さんの、見てほっとする“photo”ショット・コーナー。前号は美しい夏鳥三羽ガラス、今号は早秋の上ノ原高原で出会った愛くるしい草花と昆虫たちです(編集子)



オミナエシになりすました??



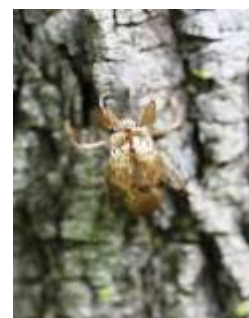
秋風に乗って旅立ち!



本当にカップル??



綺麗なものには毒!?



もう、用無し!?

□ 編集後記 ～塾長のつぶやき～

○実践に勝る学びなし 去る6月9日～10日、「学生部」初の自主企画プログラム『ノコカマ講習と地元ヒアリング』合宿が実施された。3頁のレポートにみるごとく、期待以上の成果であった。道具の手入れと使い方を学び、それを使って伐採作業をやってみる。極めて単純かつ初歩的プログラムではあるが、その過程で地元の先達のお話を伺いながら、地域が抱える現実の問題に気付き、次に何をなすべきかを自覚した。この秋には、地元で出会った藤原中学生たちの話を聴きたい、と言いだした。理念先行ではなく、先ず現地に入ってやってみる、話を聴いてみる。そこから、本当になすべきことが見えてくる。正に、実践に勝る学びなし。お世話になった親男さん並びに仁三郎さんに感謝しつつ、次代を託す学生部諸兄の自発的実践力に期待したい。



○力士の四股名に「〇〇川」がなくなった 6月24日の東京学習会で、そう教えて下さったのは“川の旅人”岡村直樹先生。山や海以上に河川環境が悪化してきたことの証と警鐘を鳴らしておられた。思えば、川が川本来の生態系を失って排水溝化し、子どもたちが水辺から遠ざけられて久しい。そして、何処の路地にでもあった井戸が姿を消し、水道の蛇口を捻りさえすれば何時でも水が出てくるようになった。これが近代文明というもの。『飲水思源』の訓えも、わざわざ説明しないと大人たちでさえ分からない時代になってしまった。全国2万本もの川が流れていて、水の国といわれる日本に住んでいながら情けないことである。



○台湾の子どもたちが習っている『飲水思源』 7月6日、麗澤中学「奥利根フィールドワーク」のお手伝いでホテル・サンバードに同宿した。このホテルはずいぶん以前から、台湾の高雄大学・観光学科の女子学生をトレイニーとして受入れしている。同国では、中国以上に『飲水思源』の訓えをちゃんと教育していると聞いていたので、給仕に来てくれた彼

女たちに尋ねて見た。居合わせた3人とも、小学校3年で習って知っているという。意味を問うと、にこにこして「日本では、もったいないでしょう」との答え！ ホテルの料理も、生き物たちの命をいただいているのだから、有難く感謝して残さず食べて欲しい。お客様が残した物は捨てなければいけない、もったいない。日本が高度成長の果てに失ったものを、台湾のこの子たちは普通に持っている。嬉しい出会いではあったが、暖衣飽食の極みにある我が国の現状を思うと悲観的にならざるを得なかった。

○「もったいない」で頑張っている人々もいるよ どなたか忘れたが、そう教えて下さる方がいた。「飲水思源」を引き合いに出してはいないが、『もったいない』精神の実践を奨励している方は、教育界はもとより省エネや自然保護などの分野では結構おられるらしい。滋賀県の嘉田知事もその代表格で、しかも『飲水思源』を説いておられると聞いて早速ホームページを覗いてみた。『もったいない』と大書したポスターを背景に講演中の知事の写真。琵琶湖を里海と捉える。そして、滋賀県は水と人が親しむ新しい幸せのあり方を模索する条件が整っている、とのお考えらしい。「飲水思源」の四文字は見当たらなかったが、バックボーンにこの訓えがあることは疑いもなく、嬉しくもあり心強くもあった。琵琶湖は、京都はもとより大阪や神戸の水瓶＝井戸である。そのことを承知している京阪神住民はどれだけいるだろうか？「飲水思源」と「もったいない」をセットにして、近畿一円の小学校で教えたとき込んで関東・首都圏に範を示して欲しいものだ。



○頼もしい限りだった麗澤中の A 君と W 先生 7月6日、麗澤中学・1年生のフィールド・ガイドをしていた時、刮目すべき発言に出会った。ブドウとサルナシの木がある林縁部で、「上ノ原には実のなる木が沢山あって、人間だけでなく動物たちにも住みやすい場所なんだよ」と説明したところ、A君が即座に「でも、人間が調子に乗ってのさばり過ぎて困るんですよ」とつぶやいたのだ。日頃、小生が主張している考えを、そのままずばりと言ってのけたのだから驚き、何とも頼もしいヤツがいるもんだと嬉しくなってしまった。そして、その夜の宿舎でのグループ作業の時のこと。学年担当のW先生が生徒諸君に向かって、「自然に感謝するだけでは小学生のレベル。中学生になったら、自分に何が出来るか考え実践してほしい」と熱く語りかけておられたのだ。これぞ、「飲水思源」の実践につながる教育。お手伝いのし甲斐を感じ、元気をいただいた一日であった。

草笛や子に残したき此の山河

糸み子

(青)



上ノ原は人と生き物の入会地
講座「コモンズ村・ふじわら」2012



第5回
秋の生き物調べとミズナラ林の整備
-原木キノコの観察や源流遡行プランも-

森林塾青水は茅場（ススキ草原）や雑木山（ミズナラ二次林）、古道・古民家など地域の自然・文化資源の再生と活用に取り組んできました。講座「コモンズ村・ふじわら」はその実践プログラムです。今年度・第5回は、秋の生き物調べとミズナラ林の整備です。生き物調べでは、特に林縁部分を注意深く探索します。ミズナラ林では、昨年伐採したミズナラを薪用に玉切りし、美しく集積（棚積み）する作業を行います。

参加者を募集します。

- 日程 9月22日（土）～23日（日）
- 集合 初日の10時20分、JR上毛高原駅改札口
〈上越新幹線〉東京 8:52—上野 8:58—大宮 9:18—高崎 9:52—上毛高原駅 10:14
- 参加費 10,000円（森林塾青水会員は9,000円、学生会員は6,000円）
※宿泊費、食費（夕食・朝食・昼食）、保険代などを含みます。初日の昼食は各自持参して下さい。現地までの交通費は自己負担です。学生には東京から往復の車を用意します。
- 宿泊 民宿「吉野屋」／群馬県みなかみ町藤原3690（0278-75-2710）
- 服装など 野外活動に適した服装（長袖、長ズボン、軍手など）。その他、水筒、雨具、カメラなど
- 申し込み・問い合わせ 森林塾青水事務局・コミュニティデザイン（浅川潔）
【電話】03-6228-3503、【ファクス】03-6228-3504
【メール】asakawa@commonf.net
- 当日・緊急連絡 浅川携帯（090-1764-9868）／清水携帯（090-3575-2283）

申込み〆切り 9月15日（土）

第1日目 9月22日（土）

時刻	内 容	備 考
10:20	上毛高原駅集合	
11:00	上ノ原「入会の森」～自由散策&観察	
12:00	昼食・休憩（弁当は各自ご持参下さい）	
13:00	秋の生き物調べ -草花と昆虫、林縁の植生（これまでの成果を参考にしながら） -野点を楽しみながら虫の音に耳を傾けます（予定）	海老沢学監&増井幹事 岡田幹事&地元の皆さん
17:30	民宿へ	
18:30	夕食 ～ 交流会&星空ウォッチング	岸先生、地元の皆さん

第2日目 9月23日（日）

時刻	内 容	備 考
7:00	朝食	
8:30	ミズナラ林の整備と原木キノコの観察 -伐倒木の玉伐り集積と原木キノコの生育状況の観察 [オプション] 十郎太沢の源流遡行／木馬道・炭窯跡の探索	草野塾頭 中島仁三郎指導員
12:00	昼食 ～ 草原サミットほか10月～11月の活動計画発表	食事処「佳のか」
13:15	解散 → たにがわ416（14:22上毛高原駅発）	

「利根川を渡る－小堀の渡しと流域の自然－」

森林塾青水のフィールド「藤原」は利根川の最上流域です。坂東太郎の異名を持つ利根川は、延長322km、水系の流域面積は日本一で16,840平方km。群馬県の全域と栃木、茨城、埼玉、千葉、東京、長野の一部に及び大河川です。本年度の楽習会は、この利根川をテーマに開催して参りますが、その第二回目を下記の通りご案内いたします。ふるってのご参加をお願いします。

開催日時 9月30日(日曜日)

午前 11 時集合～解散午後 3 時半頃

集合場所 常磐線取手駅 東口改札

● 楽習会内容

今年度学習会の第二回は、「利根川を渡る」をテーマに、実際に利根川の自然と文化に触れる楽習会として実施します。乗船予定の「小堀（おおほり）の渡し」は、明治末期の河川改修で茨城県側と分断されてしまった小堀地区の住民が、大正三年の新河道への通水時より始めたものです。90年以上の歴史があり、現在は市営となりましたが、平成11年に循環バスが運行するまでは、通学や生活の足として活躍していました。楽習会では、「小堀の渡し」に乗船するとともに、古利根沼や広大な利根川河川敷の葦原などの自然を探ります。

● 注意事項

- 当日は各自お弁当・飲み物を持参するか、集合時間までにお買い求め下さい。
- 河川敷及び流域でのフィールドワークも実施します。歩きやすい靴、服装でお越しください。雨具もお忘れなく。
- 当日の天気、他の利用客などの事情により、乗船できない場合もあります。その場合は、循環バスでの移動となります。その他、現地の事情により内容を変更することがあります。
- 小雨でも実施しますが、大雨や強風など荒天時は中止とします。

●定員 10名（申し込み順受付）

■ 申込み・問合せ先

森林塾青水 事務局 コミュニティデザイン気付

<http://commonf.net>

E-mail : info@commonf.net

T E L : 03-6228-3503 F A X :

03-6228-3504

ファックス又は参加申込書の内容をメールで
お申し込み下さい。

申し込み期限 **9月20日**

定員になり次第、締め切ります。

主 催 森林塾青水

